

を見出し EBV 陽性胃癌のモデルを作成した。今回、体内の胃癌が胃上皮性細胞と B 細胞との細胞融合によって形成されているかどうかを明らかにするために、臨床ヒト胃癌標本 100 例を用い、EBER1 (EBV-encoded small RNA 1) の発現を標的に EBV ゲノムをスクリーニングした。見いだした EBV 陽性胃癌 2 例から成熟 B 細胞マーカーである免疫グロブリンの再構成遺伝子の存在の有無を調べたところ、1 例から H 鎖と κ 鎖の再構成を証明することができた。これらの結果は、EBV 陽性胃癌が上皮細胞と EBV 感染 B 細胞との融合によって形成されたことを強く示唆している。

PC-41.

ヒト肺腺癌細胞株 A549 における細胞表面 uPA 活性に対する PGE2 の影響

(内科学第五)

○小林 克行、高橋 君子、畑尾 英一
岸 厚次、小宮山 学、須藤 晃彦
伊藤 昌之、来生 研、清水谷尚宏
足立 秀喜、柳生 久永、大石 修司
中村 博幸、松岡 健

プロスタグランジン E2 (PGE2) はシクオオキシナーゼ (COX) によってアラキドン酸から変換される生成物であり、その過剰発現は様々な癌において重要な生理的、機能的役割を有している。一方、ウロキナーゼタイププラスミノゲンアクチベーター (uPA) は癌細胞や血管内皮細胞などの多くの細胞から産生されるセリンプロテアーゼであり癌浸潤や転移に深く関わっている。uPA にはそのレセプター (uPAR) とインヒター (PAI) が存在し、これらが複雑に作用し合って uPA システムを構築し uPA 活性を左右している。本研究ではヒト肺腺癌由来細胞株 A549 を用いて PGE2 が uPA システムに如何なる影響を及ぼすかを検討した。その結果、PGE2 添加 30 分後より uPA mRNA 発現の増加傾向が認められ、3 時間後には細胞表面の uPA 抗原量が明らかに増加した。また、PGE2 添加 3 時間後には細胞表面の uPA 活性が明らかに促進し、その効果は PGE2 レセプター (EP) のアンタゴニストである AH6809、AH23848 により抑制された。これらの結果より癌細胞表面の uPA 活性は EP を介したシグナルによって調整されており、PGE2 が uPA

システムを活性化することで癌浸潤や転移に関与していることが示唆された。

PC-42.

脂腺母斑に生じた脂腺癌の一例

(皮膚科学)

○中崎 恵美、小宅 慎一、坪井 良治

(形成外科学)

松村 一

(病理診断学)

泉 美貴

57 歳、女性。生下時より後頭部に脱毛斑が存在していた。初診 5ヶ月前より脱毛部が隆起してきたため近医受診。毛包系腫瘍を疑われ切除目的で当科紹介受診。初診時、後頭部に 16×13 mm の表面に糜爛を伴う腫瘤を認めた。腫瘤の周囲には紅うんと一部脱毛斑を伴っていた。脂腺母斑の二次性腫瘍を疑い、脱毛斑を含み腫瘤を一部生検した。病理組織学的には、腫瘍細胞は表皮と連続し、蜂巣を形成し真皮内に浸潤していた。腫瘍細胞は核小体の明瞭な核異型のある基底細胞様細胞が主体で、かつ泡沫状細胞も多数みられた。病変周囲は、一部表皮と連続した脂腺の増生と異所性アポクリン腺がみられた。以上、臨床経過と病理所見より脂腺母斑上に生じた脂腺癌と診断した。頸部リンパ節は触知せず、画像上も転移を疑わせる所見はなかった。拡大全摘術を施行した。

PC-43.

膵癌の超音波内視鏡下穿刺組織を用いたムチンコア蛋白解析

(内科学第四)

○糸井 隆夫、祖父尼 淳、土屋 貴愛

栗原 俊夫、森安 史典

【背景】膵癌における粘液 (ムチン) コア蛋白の検討により、予後不良とされる通常型膵管癌は粘膜癌部、浸潤部ともムチンコア蛋白である MUC1 発現が、予後良好で浸潤する頻度の低い膵管内乳頭腫瘍 (IPMT) は MUC1 発現はみられず、MUC2 発現が高率に認められる。しかし膵管内乳頭腫瘍も一旦浸潤すると浸潤部には MUC1 発現を認めるとされる。近年超音波内